

岡山理科大（岡山市北区理大町）が今年創立50周年を迎えた。時代のニーズに敏感に対応し、多彩な研究・教育を社会に提供。4万7千人を超える卒業生を送り出してきた。半世紀の歩みと将来展望を紹介する。

# 創造と挑戦

「地域へ知を還元する」。岡山理科大で行われる研究は、この点を重視する傾向にある。

1999年に企業と大学のパイプとなる学外連携推進室を開設し、産官連携をスタート。2年後には当時、全国でも珍しかったフォーラムを始めた。

国立大が大学の知的財産による社会貢献を強化したのは2004年の去

以降。岡山理科大の取り組みがいかに先駆的だったかが分かる。

「理大フグ」で有名になつた好適環境水は、研究が実用化された代表格。真水にわずかなカリウムなどを加えた世界初の海水を使わない海水魚養殖で、山間部での新産業創出という夢が現実味を帯びている。

ほかにも電気自動車のインバーター（電力変換装置）開発、豆乳を乳酸菌で発酵させて「豆乳ヨーグルト」を作成する技術など。特許申請や製品化につながる技術など、特許申請や製品化につながる技術など。

地域の工業化を支える「理系大学」という大きな期待を背負い、岡山理科大は1964年、理学部2学科計143人で開学した。

運営する加計学園は充実した教育・研究環境の整備への投資を惜しまなかつた。波田善夫学長は「わざわざ東京まで

ミニバンの屋根にはカメラや衛星利用測位システム（GPS）のアンテナが搭載されている。走行しながら道路の凹凸や傾斜などを測量。集めたデータはリアルタイムで映像化され、パソコン画面に立体的に映し出される。「大容量の点群データを高速処理しています」。岡山理科大の島田英之工学部教授（47）の解説に、企業関係者が熱心に耳を傾けた。



岡山理科大の研究成果を発表するO U S フォーラム。企業や行政担当者に分かりやすく説明する=21日、岡山市内のホテル

岡山理科大の沿革

1964年	理学部応用数学科、化学科の1学部2学科で開学
74	大学院理学研究科（修士課程）新設
78	大学院理学研究科に博士課程設置
86	工学部新設。応用化、機械工、電子工の3学科
90	大学院工学研究科（修士、博士課程）を置く
97	総合情報学部（数理情報、シミュレーション物理、生物地球システム、社会情報の4学科）開設
2001	大学院総合情報研究科（修士課程）新設
03	大学院総合情報研究科に博士課程設置
09	工学部に工学プロジェクトコースを設ける
12	生物地球学部生物地球学科（5コース）新設。4学部17学科1コースに
14	生物地球学部生物地球学科に全国初の恐竜・古生物学コース

どだったが、今では学舎や施設は30を超えて、中に入る機器も最新鋭。発展のすさまじさを感じる」と72年に赴任してから現在までを振り返る。

今春、国内初開設した「恐竜・古生物学コース」を加え、現在4学部17学科1コース、大学院3研究科に6千人余りが在籍。その数は中四国の私立大学で最多を誇る。研究者の論文投稿数も、2002年からの10年間で1398本に上り、全国の私立大599校中41位に食い込んでいる。

時代の最先端を走りながら、常に意識してきたのが「地域」という視点。「大学として地域に根差した研究とは何かを考え、実用化して社会に送り出す研究を主導してきた自負がある」。金枝敏明副学長（学外連携担当）は力を込めた。